



日本遺産

石見の火山が伝える悠久の歴史

～“縄文の森” “^{しろがね}銀の山”と出逢える旅へ～



ガイドマップ Guide Map



“キセキ”をもたらした火山①

縄文の森を残した三瓶火山



大田市五十猛町の大崎鼻から見た三瓶山

三瓶火山は約10万年前に活動を始め、約4000年前まで活動を繰り返した火山で、活火山に指定されています。その火山活動でできた三瓶山(1126m)は、古い時代には信仰の対象でもあり、今も大田市のランドマーク(目印、象徴)と言うべき存在です。

三瓶火山がもたらした奇跡のひとつに、縄文時代の森「三瓶小豆原埋没林」があります。約4000年前の噴火によって巨木の森が地中に埋もれたもので、太古の自然の壮大さや火山活動の驚異を見せつけてくれます。

三瓶山は草原性の希少な動植物が残る山としても知られています。火山灰などが積もってできた土地が、江戸時代頃から牛や馬を飼育する牧野として利用され続けた結果、現在も広い草原が維持されているのです。

また三瓶山が信仰の対象だったことは、三瓶山の昔の名前を残す佐比賣山神社や石見一宮の物部神社の祭りなどにその名残をみることができます。



三瓶火山の約7万年前の噴火で発生した大火砕流の堆積物。左手の崖全体が1回の火砕流で積もった火山灰と軽石でできています。写真は、大田市大田町。



出雲平野と遠方に見える三瓶山。縄文時代の三瓶火山の噴火で形成された土地は、弥生時代にいくつもの集落が形成されて人々の生活の場になりました。

火山のキセキ

大田市の大地の成り立ちと人々の歴史は、火山との深い関わりがあります。まちの象徴である三瓶山は火山が作り出した独立峰で、その噴火は縄文時代の森を現代に伝える奇跡を演出しました。16世紀に世界的な銀鉱山として栄えた石見銀山の歴史はまちの軌跡そのものです。その銀をもたらしたのは大江高山火山でした。そして、日本列島が生まれた時代の火山が、このまちに豊富な地下資源と、変化に富んだ景観をもたらしてくれたのです。



縄文の森「三瓶小豆原埋没林」

“キセキ”をもたらした火山①

縄文の森を残した三瓶火山



大田市五十猛町の大崎鼻から見た三瓶山

三瓶火山は約10万年前に活動を始め、約4000年前まで活動を繰り返した火山で、活火山に指定されています。その火山活動でできた三瓶山(1126m)は、古い時代には信仰の対象でもあり、今も大田市のランドマーク(目印、象徴)と言うべき存在です。

三瓶火山がもたらした奇跡のひとつに、縄文時代の森「三瓶小豆原埋没林」があります。約4000年前の噴火によって巨木の森が地中に埋もれたもので、太古の自然の壮大さや火山活動の驚異を見せつけてくれます。

三瓶山は草原性の希少な動植物が残る山としても知られています。火山灰などが積もってできた土地が、江戸時代頃から牛や馬を飼育する牧野として利用され続けた結果、現在も広い草原が維持されているのです。

また三瓶山が信仰の対象だったことは、三瓶山の昔の名前を残す佐比賣山神社や石見一宮の物部神社の祭りなどにその名残をみることができます。



三瓶火山の約7万年前の噴火で発生した大火砕流の堆積物。左手の崖全体が1回の火砕流で積もった火山灰と軽石できています。写真は、大田市大田町。



出雲平野と遠方に見える三瓶山。縄文時代の三瓶火山の噴火で形成された土地は、弥生時代にいくつもの集落が形成されて人々の生活の場になりました。

“キセキ”をもたらした火山②

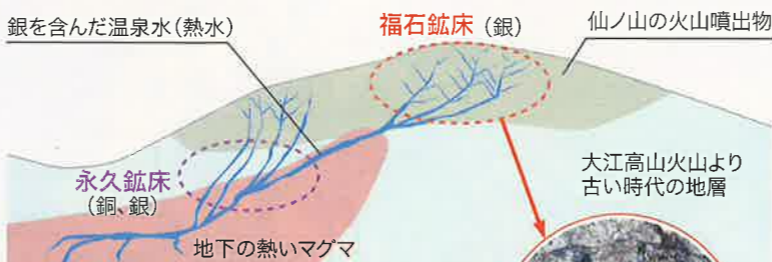
石見銀山を生んだ大江高山火山



南側から見た大江高山火山の山並み。

大江高山火山は大田市西部にあります。標高808mの大江高山を最高峰として大小30以上の峰が集まる火山で、約200万～70万年前に活動しました。

峰の多くは「溶岩円頂丘」と呼ばれる溶岩の山ですが、仙ノ山(537m)は火山礫と火山灰が積もってできた火山砕屑丘という地形です。約150万年の噴火で仙ノ山が形成された後、活発な温泉活動がありました。この温泉は銀などの成分を含んでいて、仙ノ山の地層にしみ込むと辺り一帯の岩石を「福石」と呼ばれた銀鉱石に変質させました。この鉱石は特殊な性質のもので、石見銀山が開発された16世紀時点の技術で高品質の銀を生産することに適したものでした。石見銀山は福石のおかげで銀を多く生産し、栄えることができたのです。



仙ノ山の鉱床形成のイメージ図

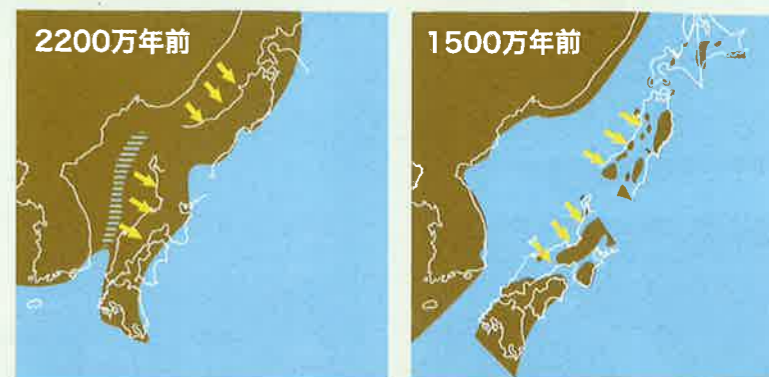
土砂状の火山噴出物に温泉水がしみ込んでできた「福石」は、比較的柔らかい石であるために掘りやすく、生産効率が高い鉱石でした。また、石見銀山に伝えられた「灰吹法」という製錬技術で銀を生産することに適した成分でした。



福石の拡大写真

“キセキ”をもたらした火山③

グリーンタフ変動の火山



日本列島形成のイメージ図。2500万年前頃から始まった地殻変動で大陸の一部が裂けるように移動して日本列島ができました。

約2500万から約1500万年前頃は日本列島が形成された時代です。地下深くから大量のマグマが上昇し、その力によって大陸の東の端が裂けるように移動して日本海が広がり、日本列島が形成されました。

この時、広がりつつあった日本海の海底や海岸では激しい火山活動が繰り返されました。その火山噴出物はしばしば緑色の凝灰岩(グリーンタフ)を含むことから、この時代の地殻変動を「グリーンタフ変動」と呼ぶことができます。

グリーンタフの地層は、日本海側を中心に日本列島の広い範囲に分布していて、大田市はその西の端にあたります。西日本では最も典型的にこの地層が見られる地域でもあり、グリーンタフは「石こう」をはじめとする豊かな地下資源をもたらしてくれました。



仁万海岸でみられるグリーンタフ(緑色凝灰岩)。海底火山の噴出物に変質して緑色に変化しました。この近くではグリーンタフの中に大型の樹木化石「仁万の硅化木」が含まれています。



久利町赤波に残る石切場の跡。市内には各所にグリーンタフを採石した跡が残ります。この石切場で採られた石は、大森の町並みの主要な建物の石垣などに使われています。



①福光石の石切場
福光石は石見銀山を中心に石見地方で広く使われた石材。室町時代から採石が続く。



③仁万の珪化木
大型の樹木化石で、日本列島形成の時代の火山噴出物「緑色凝灰岩」の地層に含まれる。



②琴ヶ浜
踏みしめると音を奏でる鳴り砂の海岸。石英質砂の美しい砂浜が延長1.4km続く。



④龍巖山(龍岩)
マグマが火道を上昇した時の筋模様のはっきり残る奇岩。山頂は石見城跡。

日本遺産 石見の火山が伝える悠久の歴史 ～“縄文の森”“銀の山”と出逢える旅へ～



⑤大江高山火山
約200万～70万年前に活動した火山。大江高山を最高峰に大小30以上の峰からなる。



⑥石見銀山遺跡
16世紀に開発され、世界的な影響を及ぼした銀鉱山。福石という独特の鉱石を産した。



⑦大森銀山地区(大森の町並み)
石見銀山の鉱山町として成立し、石見地方東部の政治、経済の中心地として栄えた町。



⑨鬼村の鬼岩
鬼伝説が伝わる奇岩で、傘のように広がる頂部と風食作用による穴が特徴的。



⑧静之窟
2穴が内部でつながり広い空間になっている大型の海食洞窟。国造り神話の関連地。



⑩松代鉱山の霰石産地
松代鉱山は石こうを産出した鉱山。副産物の霰石は世界的に稀な菊花状の形で産出。

0 10km



- 三瓶火山(溶岩)**
約1.6万～約4000年前に噴出した溶岩
- 三瓶火山(火砕岩)**
約7万～約4000年前に噴出した火山灰、火山礫、軽石
- 大江高山火山(溶岩・火砕岩)**
約200万～約70万年前に噴出した溶岩、火山灰、軽石など
- 都野津層**
約300万～約100万年前の堆積岩類(陶土層を伴う)
※都野津層は火山とは直接関係がない地層
- グリーンタフ関連の地層**
約1500万年前頃の火山岩類、火砕岩類、堆積岩類



大江高山のギフチョウ。ここでは、桜が咲く頃、多数のギフチョウが飛び交い、高根県の固有種イズモコバイモが白い花を咲かせる。



出雲市大社町の坪背山から見た三瓶山。出雲国風土記が伝える国引き神話では、三瓶山は国引きの杭、その手前に白く伸びる菌の長浜が綱に見立てられた。



三瓶山西の原。なだらかな山裾に広がる草原は、三瓶山を代表する景観のひとつ。オキナグサやユウスゲなどの希少な草原性の植物が生育する場所でもある。



紅葉の三瓶山室内。室内は峰に囲まれた凹地で、爆発的な噴火を生じた噴火口と考えられている。室内の底にある室内池の近くで二酸化炭素の噴気がある。



三瓶山と静間川。三瓶山から流れ出る静間川と三瓶川は、平野部の田畑を潤してきた。静間川源流の浮布の池にある遼幣姫神社は、流域からの信仰を集めている。



男三瓶山の北斜面に広がる三瓶山自然林。標高800mを超えるとブナが中心の森になる。近代までの三瓶山はほぼ全山が草地だったが、北斜面には森林が残った。



江の川と雪におおわれた三瓶山。中国山地を横切って山陽側から流れてきた江の川は、三瓶山の南で西へ大きく向きを変えて江津市で日本海へ流れ出る。



⑪波根西の珪化木
火山活動に伴う土石流に埋もれた巨木の化石。周辺の海底にも多数の巨木化石がある。



⑬物部神社
春日造の勇壮な本殿を持つ石見一宮。三瓶山への信仰とも関わり深い神社。



⑮佐比賣山神社と多根神楽
三瓶山の古名を伝える神社。祭りでは多根神楽の奉納が行われる。



⑰浮布の池
火山噴出物で谷がせき止められて形成された天然湖沼。三瓶山を代表する景勝地。



⑲定めの松
初代石見銀山奉行でもあった大久保長安の石見検地の際に植えられたと伝わる老松。



⑳三瓶温泉
中国地方では屈指の自噴量を誇る火山性の温泉。薄茶色の濁り湯が特徴。



⑫立神岩
濃淡が明瞭な地層と切り取ったような島が目引く。凝灰岩と礫岩が交互に重なる。



⑭三瓶小豆原埋没林
三瓶火山の噴火で埋もれた約4000年前の森林が直立状態に残る。巨大なスギが中心。



⑯小笠原流田植囃子
中世まで歴史がさかのぼる伝統芸能。三瓶山麓では、池田地区と小屋原地区で継承。



⑱三瓶山の牧野景観
牛馬飼育の歴史は少なくとも江戸時代にさかのぼり、長年、草原が維持されてきた。



㉑三瓶山
男三瓶山、女三瓶山、子三瓶山、孫三瓶山などの溶岩の峰が連なる山容が美しい。



㉒三瓶そば
火山灰土壌と高原気候で育つ江戸時代から伝わる三瓶在来そばは、風味豊かな特産品。

日本遺産

石見の火山が伝える悠久の歴史

～“縄文の森” “銀の山”^{しるがね}と出逢える旅へ～

まちの歴史をひもとくと
3つの時代の火山がもたらした
“キセキ”が見つかりました。

ストーリーの概要

地下へ続く階段を下りていくと、目の前にそびえたつ幾本もの巨大な木——。三瓶山の噴火で地中深くに埋まった縄文時代の木々が、悠久の時を超え、当時のままの姿を現しているのです。

火山大国である日本。

人々を脅かす噴火ですが、石見の国おおだにはさまざまな恩恵をもたらしてくれました。かつて世界に「ジパング(日本)」の名をとどろかせた石見銀山の鉱床もマグマから生まれたのです。

そして火山が育んだ豊かな大地は生活を潤してくれました。

暮らしの根っこに火山の歴史が息づくまち、石見の国おおだ。ここには火の国の恵みと出逢える旅が待っています。



大田市日本遺産推進協議会

大田市大田町大田口1111(事務局:大田市観光振興課)